



“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号、3階 電話 (098) 869-8711

各位

2023年12月27日

株式会社 おきぎん経済研究所

おきぎん県内景況・速報（2023年11月分）

◎ 県内景況は、回復している。

☆ 個人消費：スーパー売上高は全店ベース、既存店ベース共に前年同月を上回る。

百貨店売上高は前年同月を上回る。

新車販売台数は前年同月を上回る。

中古車販売台数は前年同月を上回る。

☆ 建設関連：公共工事請負金額は前年同月を上回る。

生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

☆ 観光関連：入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテル、

ともに前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊

収入(推計値)は下回る。

☆ 企業倒産：件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

[担当]：新垣、中江、小嶺 [連絡先] 電話：098-869-8711 ファクシミリ：098-869-2200

現場主義とお客さまからの信頼

おきぎん県内景況・確報 (2023年11月分)

©2023年11月 おきぎん「カトリア」景況図



概況：県内景況は、回復している。

11月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベース共に前年同月を上回りました。百貨店売上高は、前年同月を上回りました。耐久消費財である新車販売台数は、前年同月を上回りました。中古車販売台数は、前年同月を上回りました。

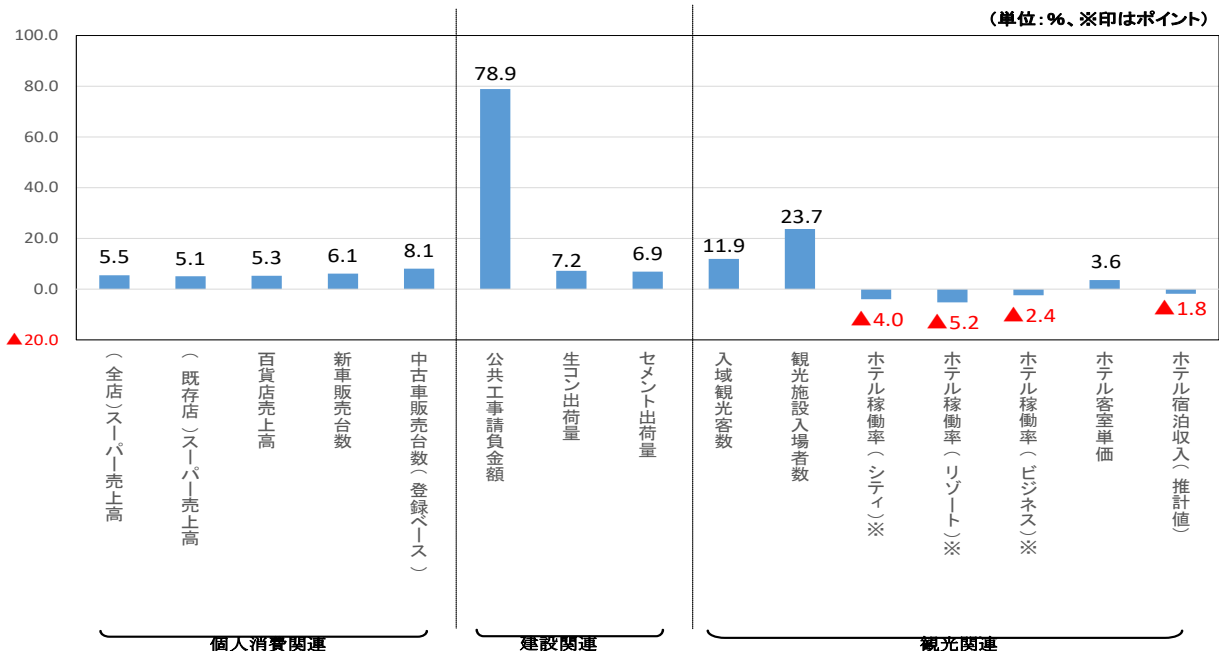
建設関連では、公共工事請負金額は前年同月を上回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

観光関連では、入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルともに前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)においては前年同月を下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費は、物価高の影響を受けながらも回復しています。建設関連は、概ね堅調に推移しています。観光関連は、全国旅行支援縮小の影響を受けながらも、団体客や外国人観光客の増加などから回復しています。よって、「県内景況は、回復している」と景気判断を据え置きました。

(2023年10月の上方修正から2か月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比(増減率)



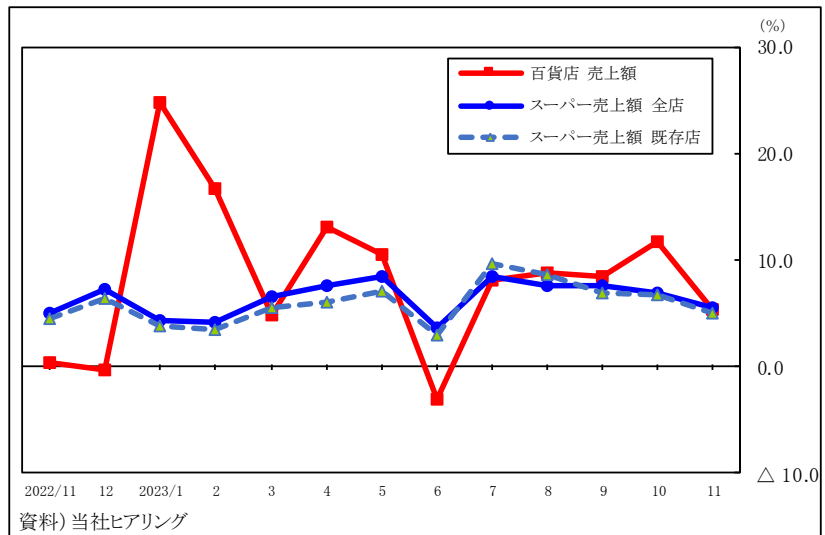


■個人消費： (やや良い)

① スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベース共に前年同月を上回る。百貨店売上高は、前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2022/11	5.0	4.6	0.4
12	7.2	6.5	△ 0.3
2023/1	4.4	3.9	24.8
2	4.1	3.5	16.7
3	6.6	5.6	4.9
4	7.6	6.1	13.2
5	8.4	7.1	10.6
6	3.6	3.0	△ 3.0
7	8.5	9.6	8.1
8	7.6	8.6	8.8
9	7.6	6.9	8.5
10	7.0	6.7	11.8
11	5.5	5.1	5.3



注) 前年同月比

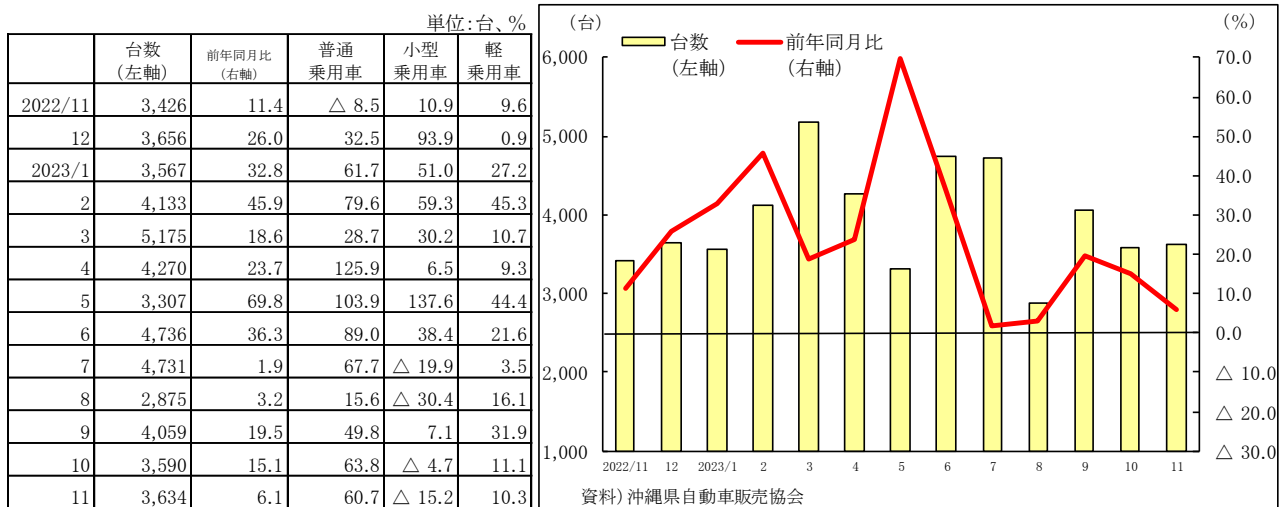
11月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 5.5%増)」は、18ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「食料品(同 5.4%増)」、「衣料品(同 6.2%増)」、家電を含む「家庭用品(同 5.6%増)」は来店客数増加や物価高による単価上昇などにより前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 5.1%増)」は、18ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「食料品(同 5.0%増)」、「衣料品(同 6.2%増)」、「家庭用品(同 4.9%増)」は、来店客数増加や物価高による単価上昇などにより前年同月を上回りました。

(参考値)コロナ禍以前の2019年同月比では、15.0%増となりました。

百貨店売上高は、前年同月を上回りました(同 5.3%増)。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 9.5%増)」は催事企画の好調やお歳暮関連商品の売り上げ伸長等により前年同月を上回りました。「衣料品(同 6.9%増)」は、ポイント還元企画の好調等により前年同月を上回りました。「家庭用品(同 38.8%増)」は、催事企画、ポイント還元企画が好調だったことなどにより前年同月を上回りました。「身廻品(同 11.9%減)」は、前年同月を下回りました。全体としては5ヵ月連続で前年同月を上回りました。

② 新車販売台数…新車販売台数は、前年同月を上回る。



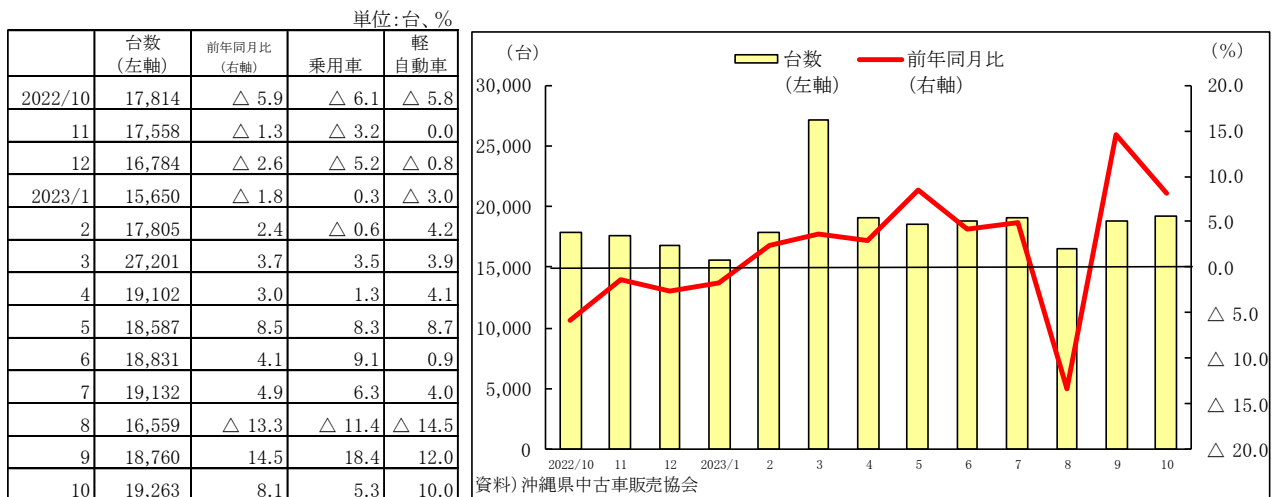
注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,634台(同6.1%増)となり、15ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車(同60.7%増)」、「軽乗用車(同10.3%増)」は供給制限の影響が改善しつつあることなどにより前年同月を上回りました。「小型乗用車(同15.2%減)」は、前年同月を下回りました。

(参考値) コロナ禍以前の2019年同月比では、全体で3.1%増となりました。車種別では、普通乗用車47.9%増、小型乗用車23.8%減、軽乗用車4.5%増となっています。

③ 【参考：10月】中古車販売台数…中古車販売台数は前年同月を上回る。



注) 前年同月比

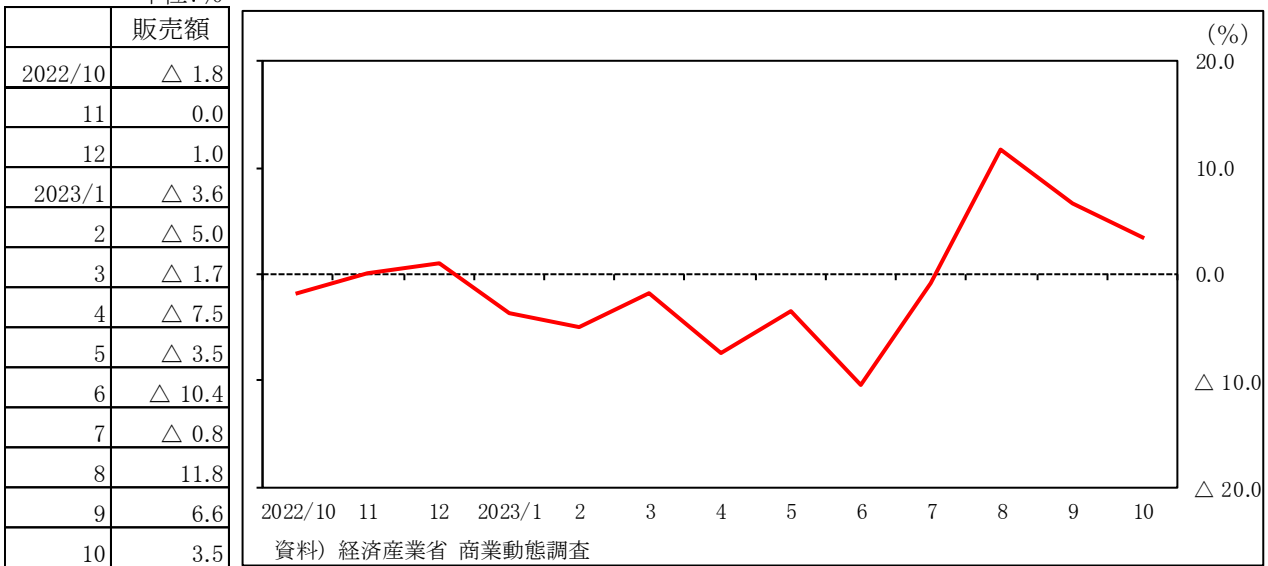
注) 登録ベース

中古車販売台数(登録ベース)は、全体で19,263台(同8.1%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「乗用車(同5.3%増)」、「軽自動車(同10.0%増)」と前年同月を上回りました。

(参考値) コロナ禍以前の2019年同月比は全体で4.1%減となり、車種別では乗用車4.5%減、軽自動車3.9%減となりました。

④ 【参考：10月】大型家電専門店販売額…販売額は前年同月を上回る。

単位：%



注) 前年同月比

10月の大型家電専門店販売額は前年同月を上回りました。

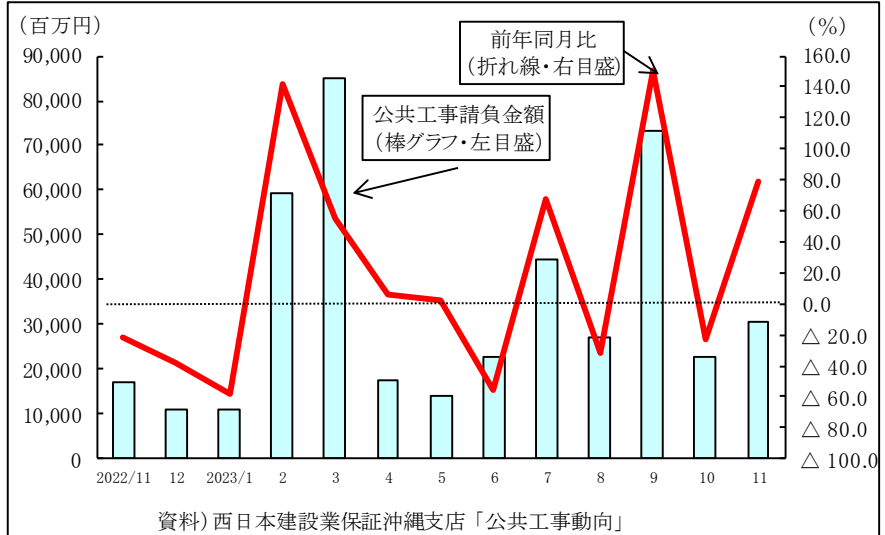


■建設関連： (ふつう)

① 公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。

単位:百万円、%

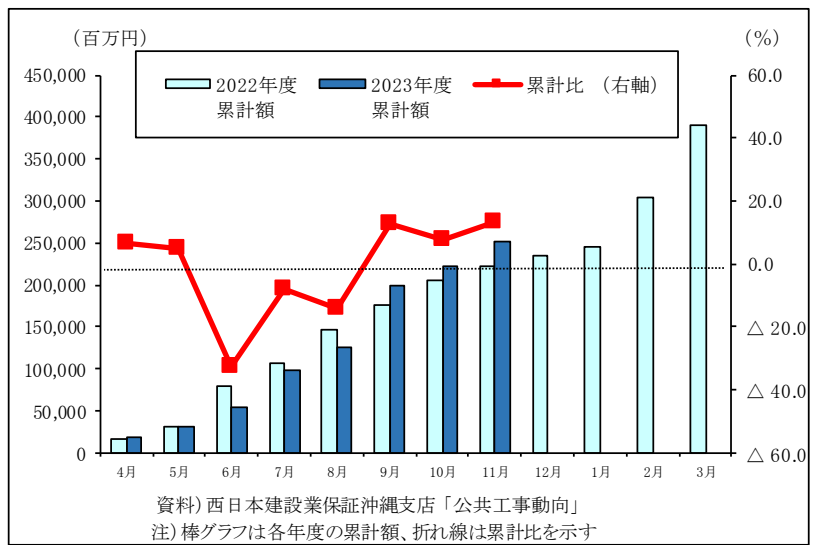
	請負金額	前年同月比
2022/11	17,120	△22.1
12	11,214	△37.6
2023/1	11,114	△58.6
2	59,359	141.8
3	84,927	54.9
4	17,663	6.4
5	14,118	2.8
6	22,582	△55.0
7	44,353	68.0
8	26,976	△32.3
9	73,429	150.2
10	22,851	△23.0
11	30,627	78.9



【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

単位:百万円、%

	2022年度 累計額	2023年度 累計額	累計比 (右軸)
4月	16,593	17,663	6.4
5月	30,325	31,781	4.8
6月	80,556	54,363	△32.5
7月	106,961	98,717	△7.7
8月	146,790	125,693	△14.4
9月	176,137	199,123	13.0
10月	205,815	221,974	7.8
11月	222,935	252,601	13.3
12月	234,149		
1月	245,263		
2月	304,622		
3月	389,549		

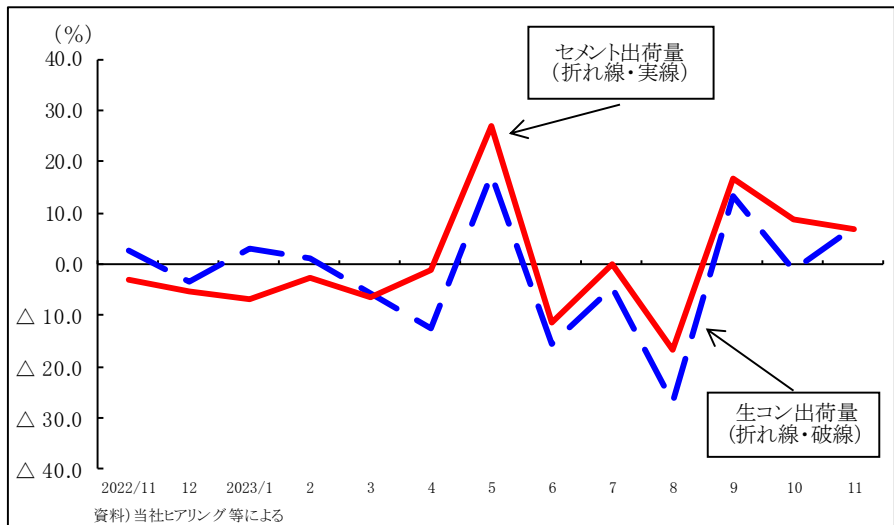


11月の公共工事請負金額は、前年同月比78.9%増の306億2,700万円となりました(2ヵ月ぶりに増)。発注者別でみると、「国(同 203.0%増)」、「市町村(同 33.8%増)」は前年同月を上回りました。一方、「その他の公共的団体(50.5%減)」、「沖縄県(同 14.4%減)」は前年同月を下回りました。

② 建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

単位:前年同月比 (%)

	生コン	セメント
2022/11	2.8	△ 2.9
12	△ 3.6	△ 5.2
2023/1	2.9	△ 6.7
2	1.0	△ 2.8
3	△ 5.7	△ 6.5
4	△ 12.6	△ 1.2
5	17.3	26.9
6	△ 15.7	△ 11.3
7	△ 4.7	0.0
8	△ 26.9	△ 16.6
9	13.2	16.6
10	△ 1.0	8.6
11	7.2	6.9



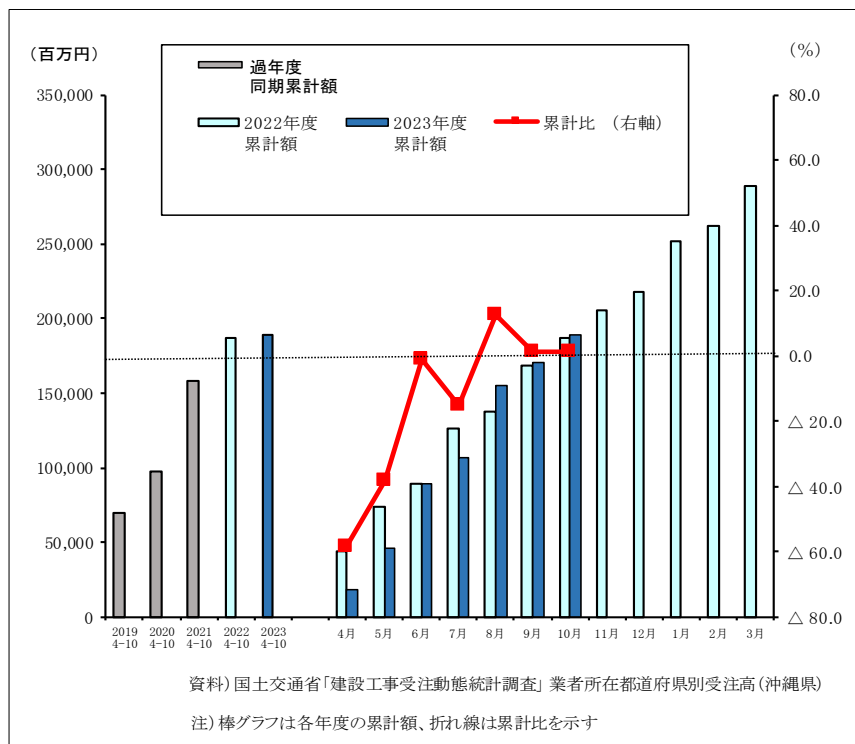
(注) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、**生コン**の出荷量は 7.2%増と2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。内訳をみると、民間工事向けは中南部地区、北部地区、宮古地区での出荷が増加したことなどから前年同月を 11.6%上回り、一方、公共工事向けは石垣地区、宮古地区での出荷が減少したことなどから前年同月を 0.2%下回りました。**セメント**出荷量は 6.9%増と3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

③ 【参考】民間等元請受注 (年度累計) …前年同期を上回る。

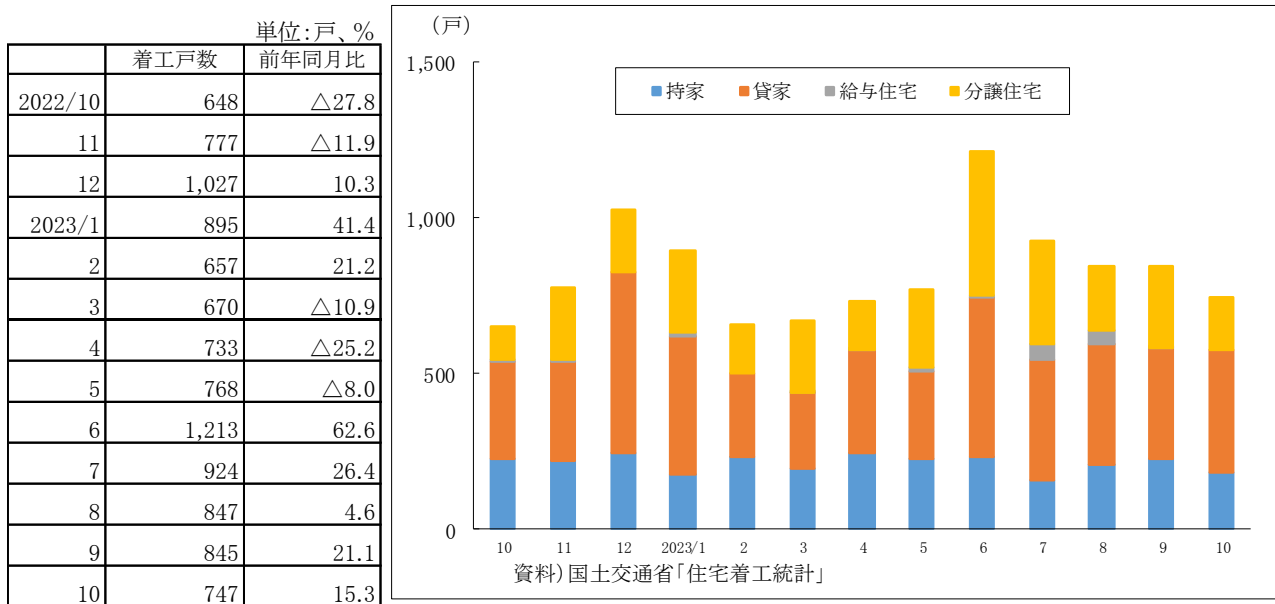
単位:百万円、%

	累計額		
2019			
4-10	70,236		
2020			
4-10	97,066		
2021			
4-10	158,047		
2022			
4-10	186,983		
2023			
4-10	189,095		
	2022年度 累計額	2023年度 累計額	累計比 (右軸)
4月	43,646	18,069	△58.6
5月	73,695	45,654	△38.1
6月	89,558	88,815	△0.8
7月	126,129	106,797	△15.3
8月	137,971	155,056	12.4
9月	168,658	170,863	1.3
10月	186,983	189,095	1.1
11月	205,895		
12月	218,471		
1月	251,544		
2月	262,699		
3月	288,537		



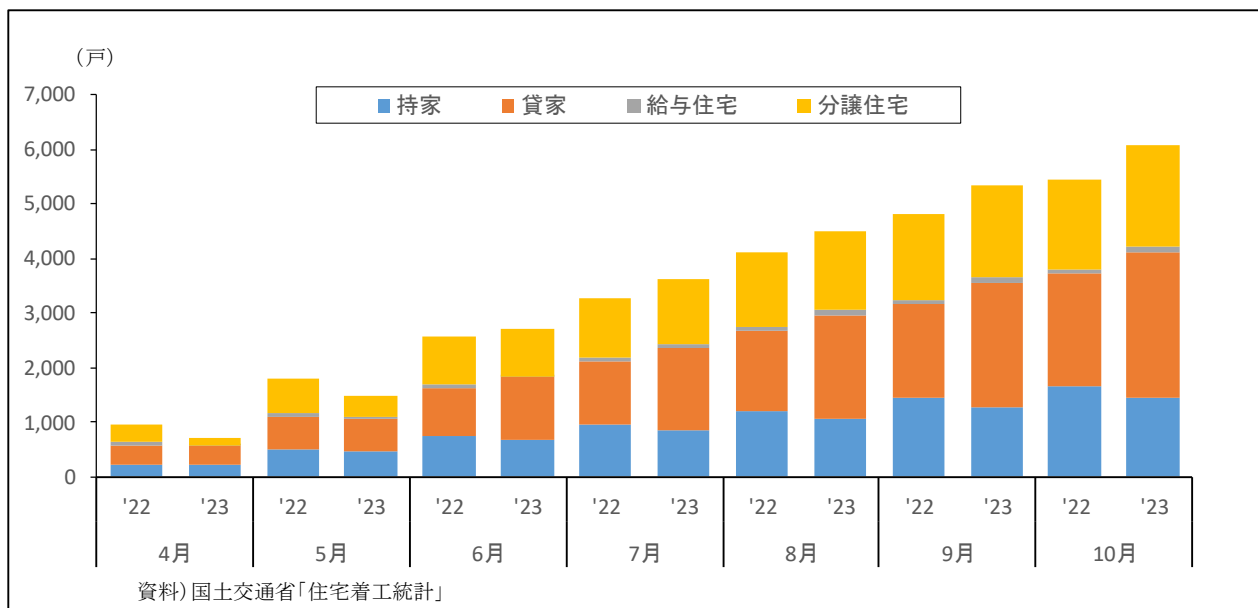
今年度累計値では、1.1%増となっています。

④ 【参考】住宅投資・・・着工戸数は前年同月を上回る。



10月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比15.3%増の747戸となり、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、「貸家(同25.6%増)」、「分譲住宅(同60.4%増)」は前年同月を上回りました。一方、「持家(同17.5%減)」、「給与住宅(同100.0%減)」は前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を上回る。



今年度累計値では、11.5%増となっています。

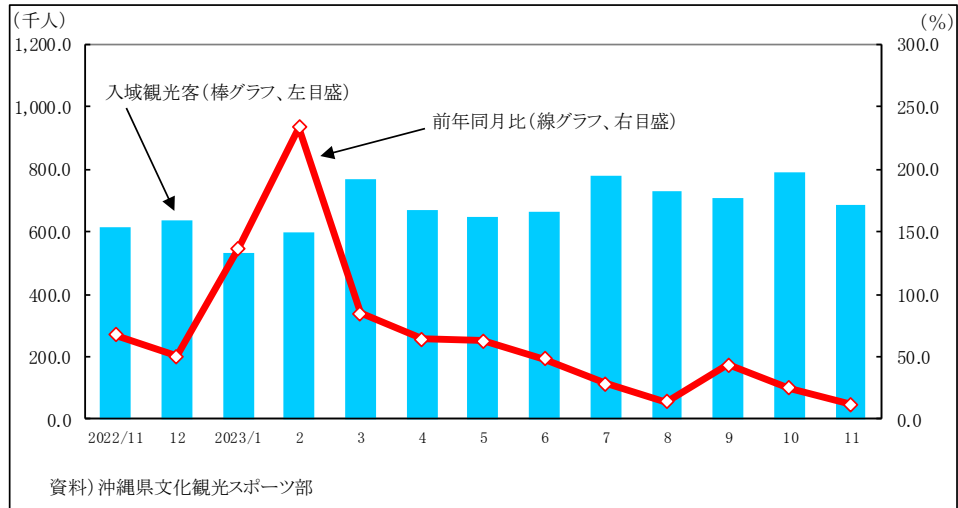


■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2022/11	615.0	67.1
12	635.0	49.9
2023/1	532.2	137.0
2	597.9	233.6
3	766.2	84.3
4	669.9	63.8
5	645.3	62.6
6	663.4	47.9
7	778.8	28.1
8	728.6	13.7
9	710.1	43.5
10	788.4	25.0
11	688.0	11.9

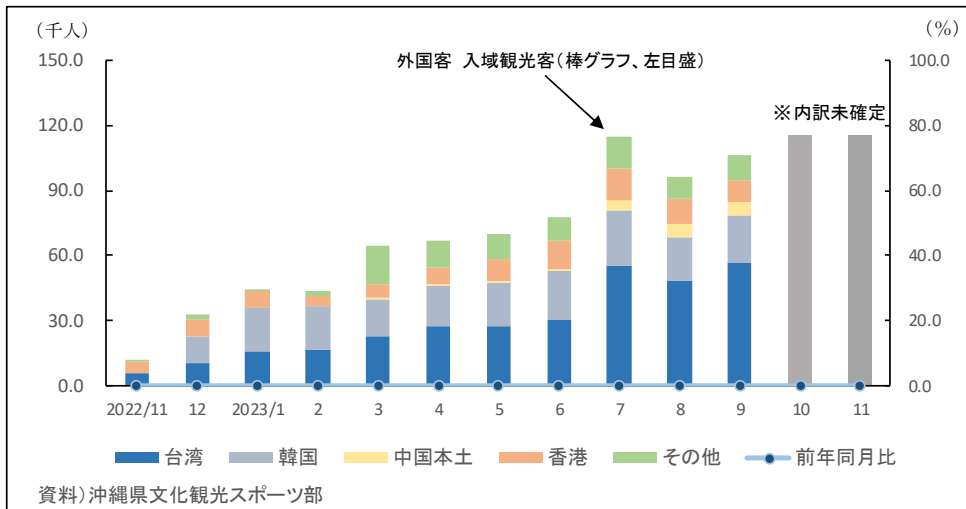


※外国客は乗務員等を含む

外国客入域観光客数・・・前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域観光客	前年同月比
2022/11	12.1	N/A
12	32.8	N/A
2023/1	44.8	N/A
2	43.4	N/A
3	64.2	N/A
4	66.8	N/A
5	69.9	N/A
6	77.7	N/A
7	114.9	N/A
8	96.4	964倍
9	106.6	N/A
10	115.5	42.8倍
11	90.9	7.5倍



※外国客は乗務員等を含む

※前年同月比は倍率表示、グラフへの反映はなし。前年が0千人の月はN/Aにて表示。

11月の入域観光客数は、73,000人多い688,000人(前年同月比11.9%増)となり、24ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、国内客は修学旅行などの団体客が増加したことやイベント開催があったものの、全国旅行支援の縮小などからわずかに下回りました(△1.0%減)。

2019年同月比(国内客・外国客の合計)では、111,200人減少(13.9%減)と下回っています。

2019年同月比(国内客)では、3,000人減少(0.5%減少)となっています。

外国客入域観光客数は、90,900人となりました(空路77,300人、海路13,600人)。今後も各路線の運航再開・増便やクルーズ船の寄港などにより、外国客数の緩やかな回復が見込まれています。

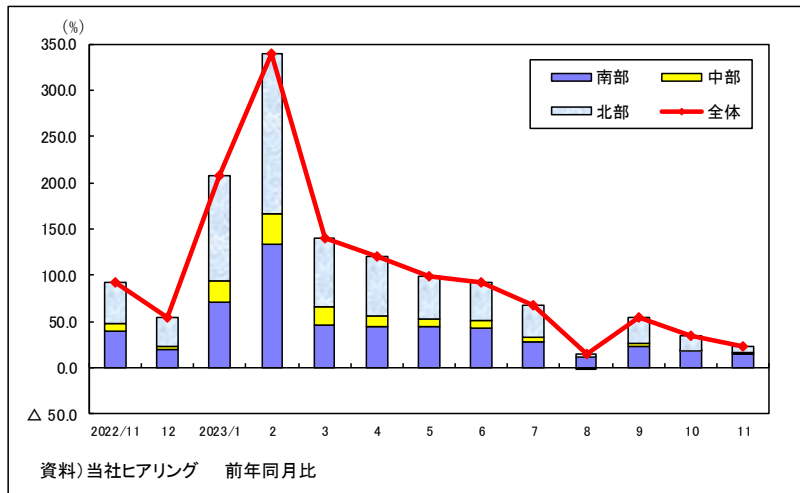
②観光施設入場者数・・・前年同月を上回る。

単位：%

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2022/11	92.2	108.9	70.5	85.1
12	54.3	59.0	19.6	61.9
2023/1	207.3	220.8	164.5	210.3
2	339.8	606.5	290.6	260.6
3	139.9	139.5	180.1	132.3
4	119.7	132.0	137.2	110.0
5	98.3	123.8	117.6	80.0
6	93.0	121.7	162.4	69.5
7	67.3	105.0	54.0	53.1
8	14.4	40.3	△ 1.3	5.5
9	54.2	77.9	51.1	43.3
10	35.3	51.0	12.1	29.7
11	23.7	36.7	11.3	15.9

※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



11月の観光施設入場者数は、団体客や外国人観光客の増加などにより全体では23.7%増となり20ヵ月連続で前年同月を上回りました。地域別では、北部の観光施設は15.9%増、南部は36.7%増、中部は11.3%増となりました。

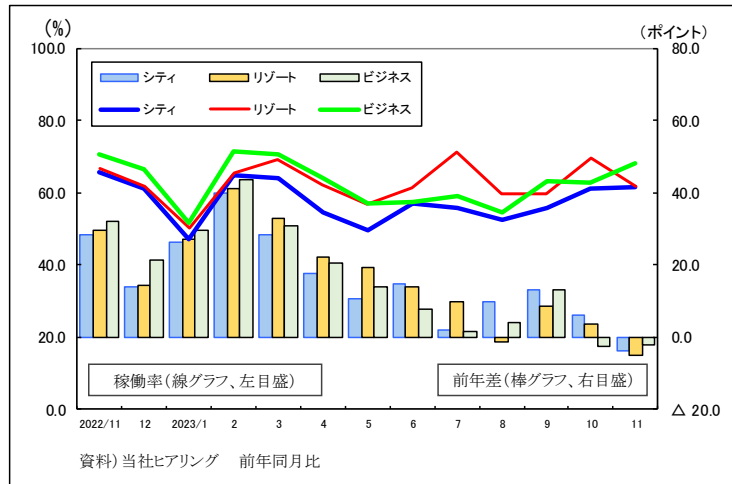
(参考)2019年同月比では、全体で23.0%の減少となりました。内訳では北部の観光施設は17.0%の減少、南部は23.2%の減少、中部は44.1%の減少となっています。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2022/11	65.5	66.8	70.7	28.4	29.5	32.0
12	61.2	61.8	66.4	13.8	14.3	21.3
2023/1	47.0	50.1	51.6	26.2	26.9	29.6
2	64.9	65.3	71.6	39.8	41.3	43.7
3	63.9	69.1	70.8	28.3	33.0	30.8
4	54.4	62.0	64.1	17.6	22.2	20.6
5	49.4	57.0	57.2	10.4	19.1	13.9
6	57.0	61.4	57.6	14.9	13.9	7.7
7	55.9	71.3	59.1	2.0	9.7	1.6
8	52.5	59.7	54.4	9.7	△ 1.4	4.1
9	55.8	59.6	63.4	13.1	8.5	13.2
10	61.1	69.8	62.6	6.2	3.6	△ 2.7
11	61.5	61.6	68.3	△ 4.0	△ 5.2	△ 2.4

注)シティ7ホテル、リゾート17ホテル、ビジネス4ホテル
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。



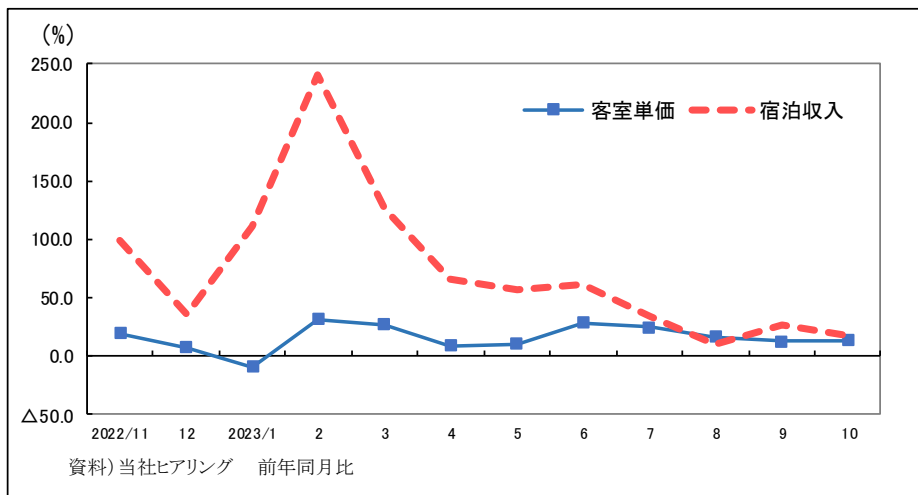
県内ホテル稼働率は、全国旅行支援の縮小による個人客の減少などから、シティホテルは前年同月比4.0ポイント減少(24ヵ月ぶりの減)、リゾートホテルは5.2ポイント減少(3ヵ月ぶりの減)、ビジネスホテルは2.4ポイント減少(2ヵ月連続)しました。

(参考)2019年同月比では、シティホテルは14.4ポイントの減少、リゾートホテルは9.8ポイントの減少、ビジネスホテルは7.3ポイントの減少となっています。

④ ホテル客室単価・宿泊収入…ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入は下回る。

単位: %

	客室単価	宿泊収入
2022/11	19.2	98.3
12	7.4	35.4
2023/1	△9.7	111.1
2	31.3	240.5
3	26.7	125.7
4	9.1	65.2
5	10.3	56.9
6	28.2	60.7
7	24.4	33.7
8	16.4	9.5
9	12.5	26.1
10	13.3	16.9
11	3.6	△1.8



※対象施設数:25施設(シティ7、リゾート17)、ビジネスは除く
※客室単価は25施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は3.6%増と10ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、宿泊収入においては1.8%減と24ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

(参考)2019年同月比では、客室単価は15.6%の増加、客室収入は4.2%の減少となっています。

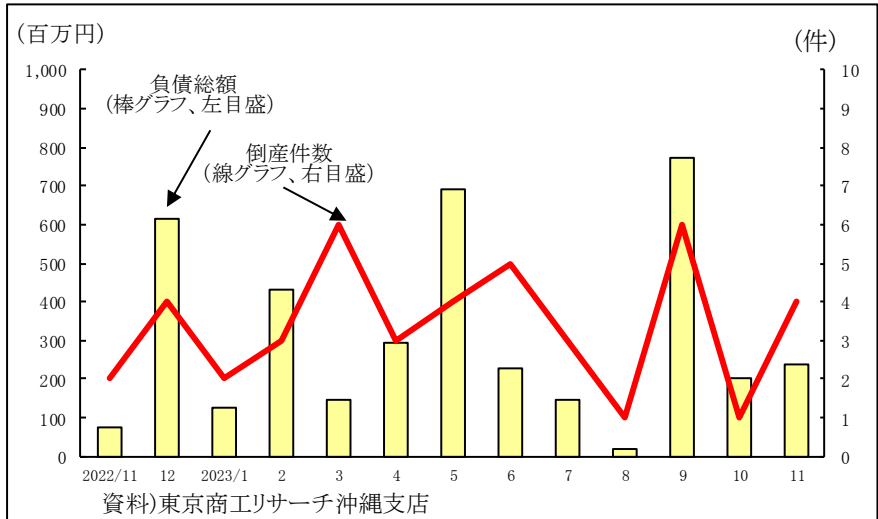


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2022/11	75	2
12	617	4
2023/1	128	2
2	430	3
3	145	6
4	294	3
5	689	4
6	225	5
7	147	3
8	20	1
9	771	6
10	200	1
11	239	4



注) 負債総額1,000万円以上を集計対象

11月の企業倒産件数は4件(うち大口倒産は1件)となり、前年同月より100.0%上回りました。
負債総額は2億3,900万円となり、前年同月より218.7%上回りました。

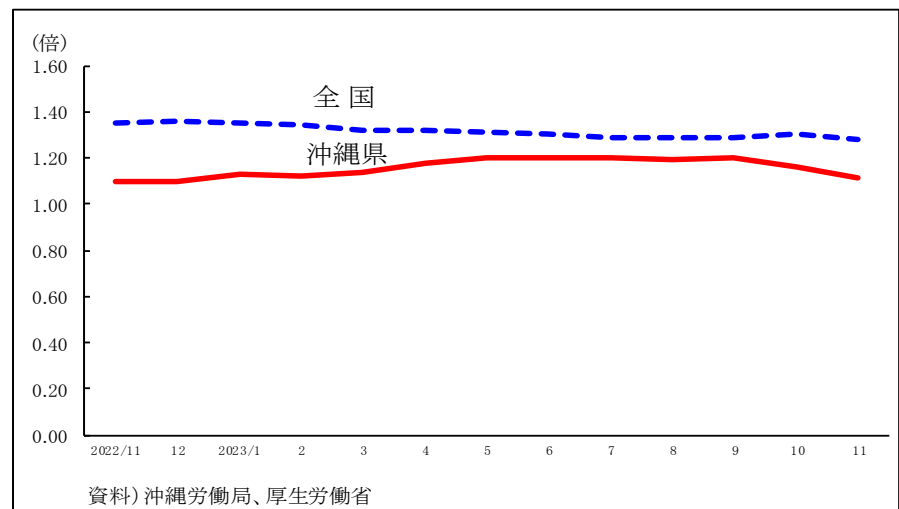


■雇用関連： (やや良い)

① 有効求人倍率・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2022/11	1.10	1.35
12	1.10	1.36
2023/1	1.13	1.35
2	1.12	1.34
3	1.14	1.32
4	1.18	1.32
5	1.20	1.31
6	1.20	1.30
7	1.20	1.29
8	1.19	1.29
9	1.20	1.29
10	1.16	1.30
11	1.11	1.28



注) 季節調整済

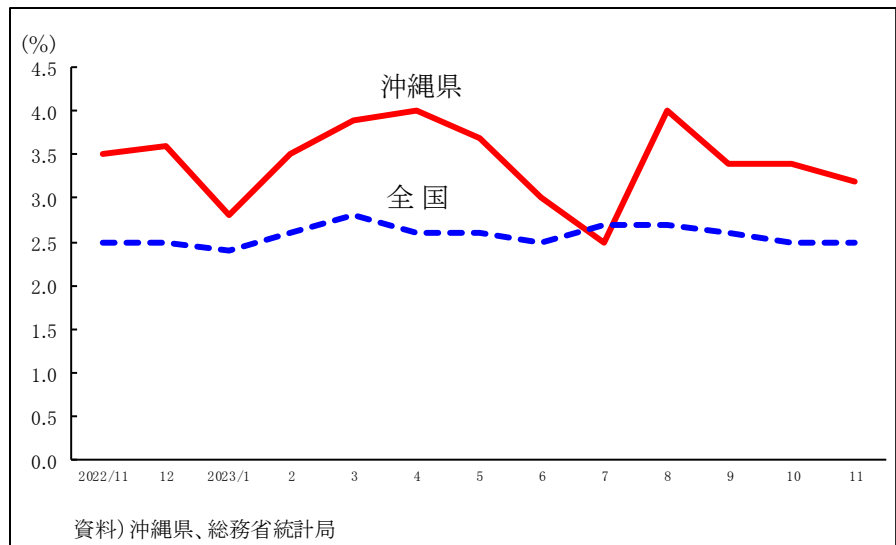
注) 沖縄県の数値は県内を就業地とする「就業地別」求人数を用いて算出

11月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)が前月比3.4%減の32,429人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.9%増の29,157人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.11倍と、前月より0.05ポイント低下しました。

② 完全失業率・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。

	単位:%	
	沖縄県	全国
2022/11	3.5	2.5
12	3.6	2.5
2023/1	2.8	2.4
2	3.5	2.6
3	3.9	2.8
4	4.0	2.6
5	3.7	2.6
6	3.0	2.5
7	2.5	2.7
8	4.0	2.7
9	3.4	2.6
10	3.4	2.5
11	3.2	2.5

注) 季節調整済



11月の完全失業率(季節調整値)は、3.2%となり前月より0.2ポイント低下しました。